

溪流の王「いわな岩魚」



七会村総務課

和 気 力

4年位前になるだろうか。私は家族と共に5月の連休を利用して、生まれ故郷でもあるみちのく岩手へと旅した時の事である。（ちなみに小生、岩手県水沢市出身）

5月とは言え、みちのくの春は遅く山間部では今だ降雪が時々あるといい、ようやく蒼葉も芽を吹き、桜の花が咲き始める時期でもある。

ある夜、酒を酌み交わしながら兄が「明日、釣りに行かないか。」と言うので、私は「どこへ？」と問うと「岩魚を釣りにだよ。しかも天然物をな……。」と答える。元来、釣り大好き人間の私にとって断わる理由などあるはずがない。しかも初めての溪流への挑戦ともなると話を聞いただけで胸が高鳴り、童心に返った思いがしたのです。

翌朝4時起床、周囲は白々と夜が明け始めようとしている頃、リュックに簡単な食物を詰め込み（勿論、中味は釣道具の方が多い。）いざ出発である。

車で走ること約1時間、奥羽山脈焼石岳の麓、雪解けの水によって普段は沢水がせせらぐ程度の流域ながれが適当な川幅となって絶好の釣場となっている（そうである。）が、名も無い川で正式には胆沢川いざさわに流れ込む沢水なのである。

ナラヤブナ、雑木の原生林の中、身の丈もありそんな熊笹をかき分け、時折今だ残る雪塊を踏みしめながら更に、徒歩で30分程。目的地に到着した頃には、すっかり夜も明け目映いほどの陽光が周囲を照らしている。

「出陣」の心境よろしく、仕掛けを取り出し、竿を伸ばしてポイントを探すが初めての私には見

極めが出来ない。溪流のポイントは、石が流れに逆って出来る渦巻状のところの底部や、落ち込みになっているところが最適で、竿に結んだ一尋び（1.5メートルから1.8メートル）の道糸と30センチ位のハリスを付けて、餌は川虫が一番良いと言い、道糸には目印を付けて釣る「ミャク釣」である。

前述のとおり、普段は沢水が流れる程度でところで、枝木や熊笹が邪魔をして思うように竿が振れず、4.5メートルの竿はおのずとポイントへ少しづつ伸ばしながら近づけて行かねばならない。そして餌が自然な状態で流れに乗り敵の目を引くように竿を操つる。「ツン、ツン」と竿を通じ手応えがあったら、竿先を素早くあおると道糸が「ピーーン」と張り穂先が、魚の重みと引く力によって絞り込まれる感触が右腕に伝わってくる。そのまま手を緩めず少しづつ竿をたたみながら手元に寄せ玉網ですくい上げると、15センチ位の銀鱗の中にピンクに似た斑点が散りばめられ美しく輝くその容姿、夢にまで見た「いわな岩魚」との出会い。

これが溪流の王様「岩魚」か、自分の手で苦戦の末釣り上げた最初の一匹目……。ポイントを探しながら上流へ上流へと川を3キロから4キロも登って行く疲労感も、その瞬間一変に忘れてしまうあの快感。

私は一度でその魅力に取りつかれ病みつきになり、ここ数年来、味わう事の出来なかった新鮮な体験をしたくて毎年のように、家族と一緒に里帰りをしては家族そっちのけで、より多くの釣果とスリルを求めて溪流にアタックしている。

今後も、しばらくの間続きそうである。

経 済 動 向

国内の動き

● 景気着実に拡大

日銀が20日発表した11月の金融経済概観によると、堅調な個人消費に加え、設備投資が製造業でも上向きに転じつつあり、景気は株式、為替相場の不安定な動きにもかかわらず着実に拡大している。先の株価下落後も相場水準は依然として年度当初を上回っているうえ、内需拡大に伴う輸出の比重低下で円高による国内産業に与える影響が小さく

なっているため。日銀は「こうした傾向は少なくとも今年度いっぱいはずっと」と判断している。

一方、米株価急落による米経済の減速懸念については、今後個人消費が多少停滞することが予想されるものの、金利の低下もあって「実体経済面にはあまり影響はない」とみている。(日経 11月21日付)

● 景気の足腰強い

経済企画庁が26日発表した9月の景気動向指数は景気の現状、先行きを示す一致指数、先行指数とも構成指標が比較対象である3ヵ月前の水準を上回り、100%を記録した。一致、先行指数が同時に100%になったのは51年2月以来約11年ぶりで、ともに9ヵ月連続して景気判断の分かれ目である50%を超えた。同庁は「最近株価が下落したうえ円高が進んだものの、景気の足腰は強く、上昇基調は揺るがない」とみている。

一致指数は構成11指標のうち、結果が出ていない全産業経常利益を除き、鉱工業生産指数、電力使用量、製造業稼働率指数、有効求人倍率など9指標が8月に続いて3ヵ月前の水準を上回ったうえ、前月落ち込んだ百貨店販売額がプラスに転じた。先行指数は結果が出ている新規求人数、事業所の建設着工床面積、新設住宅着工床面積など11指標が6月上回った。(日経 11月27日付)

● 卸売物価0.3%低下

日銀が19日発表した11月上旬の総合卸売物価指数(55年平均=100)は86.9となり、10月下旬に比べて0.3%低下した。前旬比ベースでの低下は、10月上旬の電力料金の引き下げという季節要因による低下(0.2%)を除くと約6ヵ月ぶりのこと。また、前年同月と比べても0.1%低下。10月は2年5ヵ月ぶりに前年同月上昇したが、再び下落した。

円急騰の影響で輸入品を中心に値下がりした品目が多かった。国内卸売物価指数は10月下旬に比べて0.1%低下した。国内物価は前年同月比0.5%の上昇。輸出物価指数は10月下旬比1.3%の低下。昨年11月に比べると4.9%低下した。一方輸入物価も円高が響き、10月下旬比1.9%低下した。(日経 11月20日付)

県内の動き

● 目標は高規格幹線整備

茨城県は「21世紀へのフットワーク」と題した昭和63～67年度の県道路整備計画概要(案)をまとめた。63年度から始まる国の第10次道路整備5ヵ年計画に対応して、県の地域施策展開の参考にする目的で作成した。同計画では、道路整備の目標としてまず高規格幹線道路網の形成をあげ、11月20日に全線開通する東関東自動車道の水戸までの延伸と、北関東自動車道、首都圏中央連絡自動車道の新設について、調査を積極的に推進するとしている。国道など幹線道路ネットワークの整備も主要課題としてあげ、混雑緩和

のため国道6号茨城町バイパスなどの全線開通と国道50号下館バイパスの整備促進、同結城バイパスの事業着手などを目指す。土浦、牛久、古河など核都市を育成するため主要地方道、都市計画道路の整備を進める。

鹿島灘スポーツリゾート基地建設などに対応し観光、保養地への連絡道路も整備する。地場産業の育成など地域活性化のための道路整備も進め、同時に交通不能区間の解消を図る。(日経 11月15日付)

● 中小景況着実に回復

茨城県中小企業振興公社によると、県内中小企業の景況は着実に回復し、9月には生産面でDI(景気動向指数、増加・好転企業の割合から減少・悪化企業の割合を引いた指数)が2年ぶりにプラスに転じた。調査は814企業に対し9月実績と12月予想をアンケート方式で問い合わせ、326企業から回答を得た(回収率40.0%)。

つのは、鉄鋼、非鉄、プラスチックなどで、半面、輸送、精密は回復がもたついている。製造単価は、「低下」と答えた企業が9月実績で半分近くを占めているものの、前回調査より回復の気配が出ている。一方、原材料の仕入れ価格のDIは、9月実績がマイナス9.2、12月予想が30.9と価格上昇を見込む企業が多いなど対照的。

9月実績の生産は、前年同月比でみたDIが8.6。12月予想のDIもプラスになった。業種別でみて好調ぶりが目立

在庫面は、原材料、製品とも少なめに抑えようとの姿勢が目立つ。(日経 11月27日付)